

## 突哨山運営協議会 2011年度 第2回協議会 修正版

平成23年9月26日(月) 18:30～ 職員会館

### 1. 報告事項

---

#### (1) 打ち合わせと作業報告／主催・共催

※主催等の表記のないのは「運営協議会・もりねっと」が実施

- 6月30日 カタクリルートの草刈り／もりねっと
- 7月14日 扇の沢ルートの草刈り、谷渡りルートの荒刈り／もりねっと
- 7月16日
- 7月17日 LEAFの研修会に参加／もりねっと
- 7月20日 人工林の管理方針に関する現地調査
- 7月23日
- 8月6日 コウモリ観察会の開催／オサラッペ・コウモリ研究所・もりねっと
- 7月24日
- 8月12日 コガタスズメバチ、モンスズメバチの巣を駆除
- 7月31日 谷渡りルートの道を仕上げ
- 8月9日 カタクリルートの草刈り(2回目)／もりねっと
- 8月10日 比布町子ども会 野外活動研修・リーダー研修会／比布町子ども会育成員連絡協議会
- 8月13日 自然観察指導員対象のコウモリ観察会／オサラッペ・コウモリ研究所
- 8月18日、19日 近文第二小学校2, 3年生と4, 5年生の総合学習。／近文第二小学校・もりねっと協力
- 8月28日 案内板の設置
- 8月29日 ササ調査／突哨山と身近な自然を考える会ササグループ
- 8月31日 案内板の設置(扇の沢)、階段の手直し／もりねっと
- 9月21日 上川管内商工会女性部連合会石北ブロック交流会／北海道上川管内商工会女性部連合会

## 2. 協議事項

---

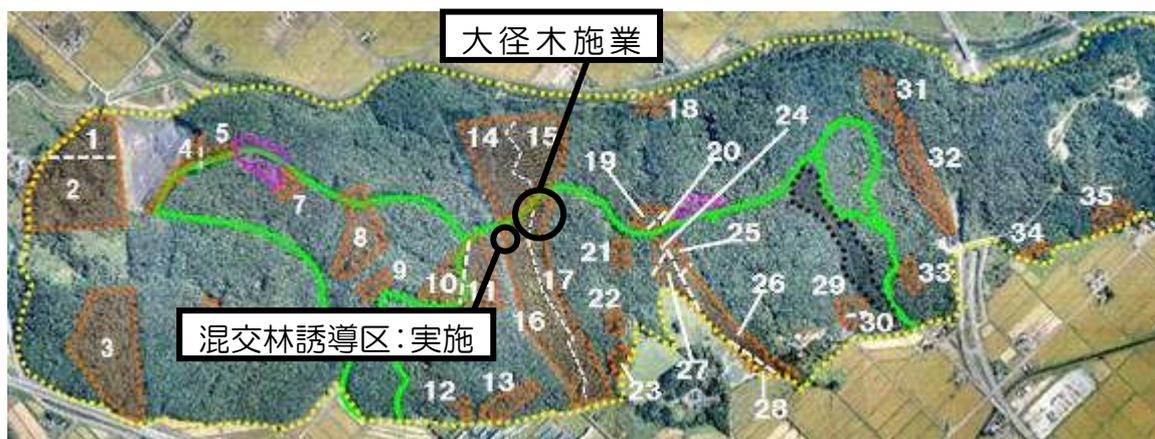
- (1) 人工林管理の方向性について 資料あり  
7月20日の現地検討の報告
- (2) 谷渡りルートの開通日、観察会、分岐名について 資料あり  
草刈りと道つけが終了。その後の予定。
- (3) 遊歩道の草刈りについて 資料あり
- (4) 突哨山駐車場の草刈りについて
- (5) 本看板にむけて  
打ち合わせ日程、全体の進め方
- (6) 学習目的の採集の問題や、公園内の設備等に関する方針の検討  
公園内の採集についてのルール、ベンチの設置など設備について
- (7) 運営協議会内でのグループづくりの検討  
比布町グループや、森林グループなどに分かれ調査等の活動を行っていく  
過去の歴史班や森林班などとの連携問題
- (8) 協議会のフォーラムの開催  
運営状況を幅広く市民に紹介する目的（来年度予定）
- (9) 散策路ノートの意見報告 資料あり  
入山口に設置したノートに記入されていた意見の紹介

### ●イベント予定、告知

## (1) 人工林管理の方向性について

2011 年 7 月 20 日に、突哨山運営協議会の成田さんに協力していただき、もりねっと（陣内、山本、清水、石黒）と現地検討を行いました。

とくに、今年間伐を行った「林業型施業区」のその後、混交林への誘導のしかた、地図上の 4 番、5 番のトウヒ、トドマツの密生林の取り扱いに重点をおいて検討しました。



上図：「突哨山調査中間報告 2002」によると大まかに 35 カ所あることがわかった。

### ■人工林管理の基本方針

突哨山の人工林管理は、森林環境を多様化、安定させるための手入れを行いつつ、市民に森林に親しみ、理解する機会を提供する。最終的には針広混交林への回復を目指す。

木材生産は目的とせず、過密人工林の現状を改善しながら、広葉樹の天然更新を図る（展示見本林は除く）。大型機材の使用など、環境や景観の激変を避け、手入れの際に生まれる木材資源は活用に努める。

人工林の大半は「混交林誘導区」とし、最小限の労力により過密状態の改善と広葉樹の更新により、環境の多様化を目指す。

「大径木施業区（旧名称：林業型施業区）」は集約的な管理により、大径木が多い複層混交林の早期実現を目指し、無施業区とともに、市民が森林管理を理解するための「展示見本林」と位置付ける。

●大径木施業区の今後

**名称の変更**：林業型施業区という名称は、「林業型」の間口が広くわかりにくいという点から、「**大径木施業区**」というのでしょうか。

《目標林形》

優良のトドマツを残し、大径木と多様性のある森林空間を作ることとします。集約的な管理と強度の間伐により、トドマツ大径木に大小の広葉樹が混ざり、散策などに適した複層混交林をめざす。

大径木施業区は地図番号 17 番の一部 (0.3ha) を設定し、今年 4 月に間伐を行いました。

《作業工程》

現在は手入れが遅れた過密な人工林なので、短周期で間伐を行い、個々の樹形と林内の光環境改善を目指します。間伐は将来木を残し、ha あたり 200 本前後の大径木を育成します。

1、トドマツの最終的な目標本数を 200 本前後/ha 程とし、間伐で段階的に本数を減らしていきます。太さ(胸高直径)は 60cm~80cm が目標。最終的な本数にするまで 50 年を目標とします。

【トドマツの本数の経過、( ) 内は 0.3ha 内の本数】

・無間伐時 2700 本/ha (810 本) →2011 年 4 月の間伐で 1600 本/ha (480 本) →→→200 本±/ha (60 本±)

2、間伐の際には天然更新した広葉樹の保全、育成や林床植生にも配慮する。

場合によってはササ刈りなども含め、歩きやすく親しみやすい森林空間を早期に確保します。

★今後は、施業区内に生えている広葉樹の樹種、本数を調べ、残したトドマツの枝の重なり具合を見ること、また他にどのような調査項目が必要で、期間はどの程度なのかも検討する必要があります。

●混交林誘導区の設定や取り扱い

《目標林形》

過密人工林の現状を改善しながら、広葉樹天然更新を活かして混交林に誘導する。広葉樹の更新が優良な場所、危険木が多く発生する場所など局所的な状況に応じて、優先順位をつけた取り扱いをします。



富良野市、東大演習林のトドマツ林

《作業工程》

1、優先すべき林を設定します。たとえば人目に付く遊歩道の林（4,5,7,8 番など）や、すでに実施されている場所（16 番のごく一部）の拡大など。

その後、すでに生えている広葉樹や林内の空間を利用して、局所的に伐採をしていく。

2、集約管理が困難、また木が細く、密生している状態（無間伐状態）なことから当面は作業効率を重視した「切り捨て間伐」を行います（搬出せず、材は林内に置かれます）

その後、木が太ってきたら活用する方法を検討していく必要があります。



16 番周辺の様子

★限られた労力の中で、局所的な改善を広げながら 2014 年までには全域をカバーできれば好ましい。しかし、現在では 16 番のごく一部のみで、年に数回の間伐イベント時にしか手入れをしないので、年に5本程度しか間伐されていません。

●無施業区

人工林の一部に、施業を行わない小区画を設置し、過密したまま放置します。その状況を展示すると同時に、施業区との違いを経過観察、記録します。

風雪害が発生した場合も、原則として施業を行いません。

●地図番号4番、5番の密生林について

放牧跡地を抜け、北分岐方面へ歩くとヨーロッパトウヒやトドマツが密生した林にでます。4番のトドマツ、5番のヨーロッパトウヒはいずれも1980年に植栽し、下刈りのほか、徐間伐がされていない様子です。